

薬害ってなんだろう？

薬には病気を治す働きがある一方で、それ以外の好ましくない働き(副作用)が起こる場合があります。例えば、「かぜ薬を飲んだら眠くなった」、「注射をしたら、針を刺した部分が少し腫れた」という経験をしたことはありませんか？
しかし、「薬害」と呼ばれているものは、このような副作用とは異なる問題のようです。単なる副作用と薬害は、どこが違うのかに注目しながら、薬害の歴史を見てみましょう。

学習のポイント

- point 1 年表に示された薬害はどのようなものだったか確認しよう。
- point 2 年表中の薬害について解説した文章を読み、薬害発生についてどのような共通点があるのか考えてみよう。

年表

1950

企業の製造ミスが原因でワクチンにジフテリア毒素が残っていました

1948(昭和23)年~1949(昭和24)年
ジフテリア予防接種による健康被害
【被害者】924人(死亡83人)



1979(昭和54)年 知解

1960

HIV感染のような悲惨な被害を再び発生させないように努力する決意を銘記した「誓いの碑」。

厚生労働省の敷地内に1999(平成11)年8月24日建立。



1958(昭和33)年頃~1962(昭和37)年頃
サリドマイドによる胎児の障害
【被害者】約1,000人

1953(昭和28)年頃~1970(昭和45)年頃
キノホルム製剤によるスモンの発生
【被害者】1万人以上

1959(昭和34)年頃~1975(昭和50)年頃
クロロキンによる網膜症

クロロキンによる網膜症
マラリア(亜熱帯・熱帯地域に多い感染症)治療のために開発された「クロロキン」という薬を使った人に、目が見えにくくなるなどの症状が起こりました。製薬会社が薬の危険性について注意を払っていれば、被害を最小限に食い止められたかもしれません。

1970

薬害エイズ

血液製剤によるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染
主に血友病(出血しやすくなる病気)の患者として使用していた患者がHIVに感染してHIV感染防止の対策を取らなかったことで被害が拡大しました。



非加熱血液製剤
血液などを原料とする薬で、加熱して滅菌処理をしていないもの

1980

~1988(昭和63)年頃

血液製剤によるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染
【被害者】1,400人以上

血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染
【被害者】約1万人(企業の推計)

血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染
出産や手術の際に、止血剤として使用された血液製剤にC型肝炎ウイルスが入っていたため、多くの人々がウイルスに感染し、慢性肝炎や肝がんなどの病気になりました。製薬企業の製造責任は重く、国は甚大な被害の発生、拡大を防止できませんでした。



1973(昭和48)年頃

解熱剤による四頭筋短縮症
【被害者】約1万人

解熱剤による四頭筋短縮症
乳幼児期に熱を下げる薬などがみだりに筋肉注射されたことで、膝が曲がらないなどの被害が全国的に起きました。

被害者は年齢が進むとともに毎日の生活行動に苦しんでいます。

1990

1989(平成元年)年~1993(平成5)年

MMRワクチン接種による無菌性髄膜炎
【被害者】約1,800人

MMRワクチン接種による無菌性髄膜炎
はしか(M)、おたふくかぜ(M)、風しん(R)を予防するワクチンの接種により、多くの子どもが無菌性髄膜炎(ウイルスにより脳の膜に炎症が起こる病気)などを発症し、重い後遺症や死亡などの被害も発生しました。製薬会社が国に報告していない薬の作り方をしていた、国の監督が不十分だったなどと指摘されました。

~1997(平成9)年頃

ヒト乾燥硬膜の使用によるプリオン感染症(クロイツフェルト・ヤコブ病)
【被害者】141人

1970(昭和45)年代頃~

陣痛促進剤による被害

陣痛促進剤による被害
陣痛促進剤による胎児の死亡や重度の脳性麻痺、母親が死亡するなどの被害が起きました。薬の効き具合の個人差が大きいかかわらず適切な使用方法が徹底されなかったことなどが原因と言われています。

【表紙写真説明】
左上および左中央:「サリドマイド」の被害者、右上および右下:「スモン」の被害者の方
左下:厚生労働省にある「誓いの碑」/(碑文)命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件 このような事件の発生を反省しこの碑を建立した 平成11年8月 厚生省

*時期は被害が発生したと考えられる主な時期等です。また、被害者数等については諸説ある場合があります。